

〔遺伝資源の収集・評価・保存〕

夏まきキャベツの品種特性

～7月上旬まきセル苗定植～

沼尻勝人・野口 貴・海保富士男

(園芸技術科)

【要 約】 7月上旬まきのセル苗定植において、「YR 藍宝」を対照として比較栽培した結果、「KA-701, 早生藍宝つばさ, 初恋」は収量性が高く、株張りや外葉が小さくコンパクトで栽培しやすく歩留まりがよい品種である。

【目 的】

キャベツは都内で作付面積が多い品目である。特に夏まき用の品種数は多く、生産現場に適する品種の選定は重要である。本試験では、7月上旬まきの作型でセル苗を使用した場合の品種特性を明らかにし、有望品種の選定資料とする。

【方 法】

2015年7月10日に「YR 藍宝」(対照品種)ほか14品種を128穴セルトレイ(培地はレディアースを使用)に播種した。育苗27日後の8月6日に本葉4枚程度で定植し、栽植様式を両区とも条間60cm, 株間33cm(5000株/10a), 1区26株の2反復とした。基肥はN-P₂O₅-K₂Oを成分量で15-15-15kg/10a, 追肥はN-K₂Oを成分量で各8kg/10a施用した。収穫調査は、10月14日(定植68日後)に行った。

【成果の概要】

1. 気象条件：播種後は晴天日が多く高温乾燥で推移した。育苗ハウスは高温となり出芽は遅れたが、いずれの品種も1週間程度で出芽揃いとなった。定植時期も高温であったが降雨が続いた。8月15日頃から9月中旬までは低温寡日照となり、定期的に降雨もあったことから軟弱気味に生育した。9月下旬からは、平年よりも日照は多く、降水量は少なく気温は高めに推移した(図1)。
2. 「YR 藍宝」の結球重は1,293gであり、同等以上の品種は「KA-701」の1,453gから「峰月」の1,255gまで8品種あった。そのうち、「しずはま2号」は結球緊度が最も低く、巻きが緩かったが、それ以外はよく締まり早くから充実したと考えられる(表1)。
3. 前述した品種の中で、結球重や球高、球径といった変動係数が小さく球揃いに優れた品種は「KA-701, 輝吉, 早生藍宝つばさ, 初恋」であった。それらの品種は、「YR 藍宝」よりも株張りや外葉数、最大葉が小さくコンパクトな草姿であった。特に「初恋」は最も小さく、栽培しやすく歩留まりも高いと思われた(表1)。
4. 定植後の降雨と高温による立枯れ病や8月下旬から9月上旬の低温寡日照による軟腐病が発生した。「YR 藍宝」と同等以上の収量性や生育と示した品種のうち「輝吉」は立枯れと軟腐病がやや多い傾向がみられた(図2)。
5. まとめ：7月上旬まきでセル苗を使用した栽培において、「YR 藍宝」を対照として比較した結果、収量性が高くコンパクトで栽培しやすい品種は「KA-701, 早生藍宝つばさ, 初恋」であった。

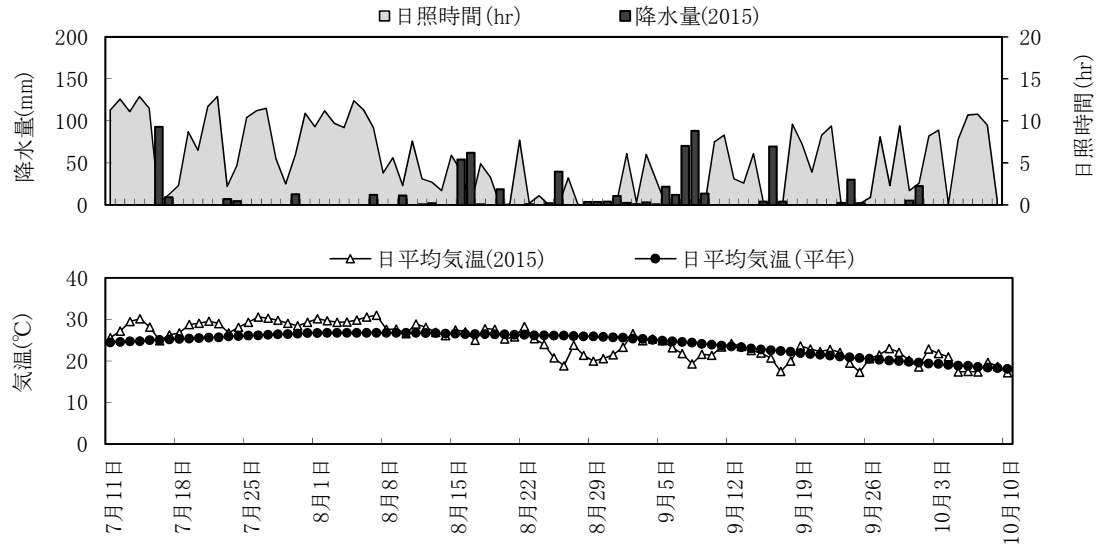


図1 栽培期間中の気温および日照時間、降水量の推移
アメダスデータ(東京都府中市), 7月10日播種, 8月6日定植

表1 夏まきキャベツの品種特性

品種	全重		結球重		結球緊度 ^a		球高		球径		球高		株張り		外葉数		最大葉	
	(g)	(g)	(g)	cv	(g/cm)	(cm)	cv	(cm)	cv	/球径	高さ(cm)	幅(cm)	(枚)	長さ(cm)	幅(cm)			
KA-701	2096	1453	19		0.67	10.8	6.0	19.6	8.0	0.50	27	64	13	32	34			
輝吉	2105	1388	16		0.63	11.1	4.0	19.4	5.6	0.44	29	61	12	32	31			
早生藍宝つばさ	2177	1368	19		0.60	10.8	3.5	20.2	7.1	0.46	30	64	13	32	34			
藍宝2号	2233	1351	23		0.60	11.8	3.2	19.1	7.6	0.49	31	65	13	34	34			
しずはま2号	2221	1313	21		0.49	11.3	10.0	21.3	5.5	0.53	32	68	14	36	39			
初恋	1930	1309	17		0.58	12.8	7.8	18.4	6.4	0.56	25	59	14	29	28			
YR藍宝(対照)	2129	1293	16		0.62	11.6	5.4	18.6	6.5	0.54	32	63	15	32	34			
秋空2号	2027	1289	23		0.60	10.2	6.0	20.2	7.3	0.46	29	64	13	32	36			
峰月	2091	1255	19		0.59	11.3	4.0	18.9	9.9	0.54	30	63	13	32	35			
青琳	1721	1179	29		0.57	10.9	9.0	19.1	10.4	0.50	24	56	13	29	28			
彩里	1833	1171	12		0.57	10.4	4.0	19.4	2.9	0.54	27	60	12	32	34			
新藍	1949	1158	19		0.53	10.4	5.0	20.1	6.7	0.41	29	65	14	33	33			
彩峰	1914	1136	31		0.55	11.3	13.6	18.7	9.6	0.53	46	62	14	32	37			
いそかぜ	1797	1053	25		0.54	11.3	8.8	18.2	7.6	0.52	30	64	13	33	34			
N-55	1863	1034	20		0.58	10.8	5.6	17.8	5.0	0.57	32	62	15	32	34			

a) 結球緊度=結球重/(4π(球高/2)(球径/2)²/3)とした

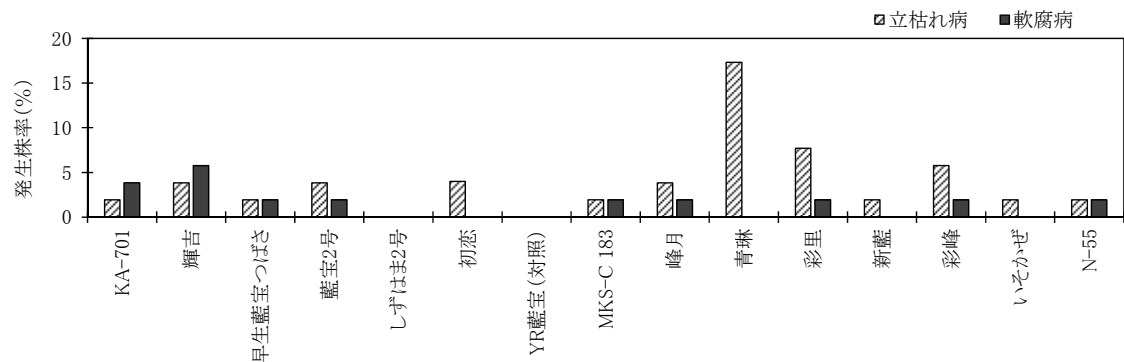


図2 供試品種における定植後の立枯れ病(ピシウム菌)および軟腐病の発生率